

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

第4回宮古林業研究会の開催

12月11日（木）

令和7年12月12日に第4回宮古林業研究会を開催した。今回は「宮古島市内における育成木施業の検討」について座学と現地における実地研修を行った。

育成木施業とは、将来価値が高くなると見込まれる優良木（育成木）に焦点を当て、その木の周りを間伐しながら集中的に育成することで、質の高い大径材を育てる施業方法のことをいう。宮古島市は市有林においてイヌマキやテリハボク等を造林しており、20～30年生に成長した林分が多くあるため、市造林地において育成木施業を取り入れられないか、検討を行った。

今回は平成元年度植栽のイヌマキ造林地を対象地とした。午前の座学では宮古農林水産振興センター及び北部農林水産振興センターの職員より育成木施業に関する講習を行い、対象地の目標径等を設定した。目標径については、現在修復が行われている首里城の向拝柱や外壁等に利用されたイヌマキの径を参考とし、胸高直径50cmに設定した。

午後の現地での実地研修では、まず、北部農林水産振興センターの國吉主任より測量アプリ「mapry林業」を活用した現地測量についての講習を行った。本アプリではスマホで現地の面積測量やプロット設置等が簡易に出来る。実際にアプリを使用した会員からは導入したいとの声が上がった。

その後、育成木施業の実地研修として、実際に育成木の選定・ライバル木（間伐対象木）の選定・ライバル木の伐倒を行った。育成木の選定に各会員が苦戦したものの、会員間で意見を出し合い、造林地内全てで選定が完了した。ライバル木伐倒（3本）を行い、育成木の周りが開けたことを確認することもできた。

育成木施業では育てたい木を選び、その成長のために周辺木を伐採するという、従来の間伐とは違った視点の手法のため、会員からは選定が難しいものの、現実的に将来を見据えた間伐を行うことができることに肯定的な意見が多く上がった。

引き続き会員間での情報・技術を共有し、宮古島内の森林・林業の推進に向けて取り組んでいきたい。



▲育成木施業に関する座学



▲測量アプリの講習



▲育成木施業に関する現地説明



▲育成木の選定



▲選定完了
ピンクテープ：育成木
黄色テープ1本：ライバル木
黄色テープ2本：今回間伐するライバル木



▲ライバル木の伐倒



▲伐倒前後の様子
(○が育成木)

(報告者：宮古農林水産振興センター 山城・玉城・仲宗根)